

■ブース 2■

カードで遊ぼう！！対話の迷い

キーワード：子どもの哲学、カードゲーム、メタ・ダイアログ、対話の迷い

古賀裕也、堀静香、永井玲衣

哲学プラクティス連絡会では、たくさんの素晴らしい実践に触れることができる。しかし、ただ聞いて学ぶだけのあつまりにしてしまったら、悪い意味でのあの「教室」というものを再現してしまう。

哲学的な対話の場は、知識がなくても、まちがっても、見下されたりしない。だからこの連絡会でこそ、素直に対話の「うまくいかなさ」を発表したい。それが、私たち三人の共通の思いだ。

学校で、街なかで、対話することについて「否定的」な反応が出る。私たちは、つい対話することを擁護してしまう。でも時々、対話することに後ろめたさや罪悪感がわいてくるのも本当だ。

それは私たちに経験や研究がたりないからだろうか。それともみんな同じように迷っているのだろうか。哲学や対話なんて要らないと言われながら、それでもやってみたり、やっぱりやめてみたり。そんな実践者や参加者のリアルを共有する対話的な場を、せめて小さなブースの中に持てたらと思う。

【やること】

対話の迷いカードゲーム

用意したカードには、学校の生徒などから実際に出された「否定的」な意見が書かれています。ブースに来ていただいた方には、カードをめくって出た意見に対して、自分ならどう対応するか、姿勢や工夫を考えて表現してもらいます。

来訪された方の意見はブースのポスターに蓄積され、カードごとにミニ対話が成立するようになっています。また、ブース展示終了後には、結果をまとめて公開することで、広く意見を募ることも考えています。

勝ち負けや正解のないゲームです。いっしょに悩みながら、楽しんでみませんか？

〈こがゆうや、ほりしずか、ながいれい〉

全員が哲学科出身で、上智大学対話研究会「ディアロゴス」所属です。古賀・永井は、四谷の哲学カフェ「Core Talk Cafe」の現運営メンバーでもあります。両団体ともにそれぞれの理念を持って、2011年春から学校や街なかでの対話のお手伝いなどつづけており、勤務校その他様々な場所においても実践の輪を広げています。